



図書館だより

中高生版

冬号

こんにちは。大船渡市立図書館です。

12月はクリスマスのイルミネーションが輝き、どこか心が浮き立つ季節。

一年を締めくくり、新しい年を迎えるこの時期に、読書を通して心を温め、豊かな時間を過ごしてみませんか？

市立図書館では、中・高校生の皆さんにおススメの本を集めた「YA コーナー」があります。近くに個人閲覧席や漫画コーナーも設置していますので、ぜひご利用ください。

また「ビジネス支援コーナー」には、いろいろな職業についての本があります。各職業について進路選択の例や必要な資格の取得方法が書かれたガイドブックもありますよ。

大船渡市に住んでいなくても、市内の学校に通っている方は誰でも本を借りることができますので、どうぞお気軽にお問い合わせください。

寒い日はおうちでゆっくり過ごしたい……。

そんな時、物語はきっと良い相棒になってくれます。



冬の図書館 カレンダー

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
<u>12/21</u>	<u>22</u>	<u>23</u> 休館	<u>24</u>	<u>25</u>	<u>26</u>	<u>27</u>
<u>28</u>	<u>29</u> 休館	<u>30</u> 休館	<u>31</u> 休館	<u>1/1</u> 休館	<u>2</u> 休館	<u>3</u> 休館
<u>4</u>	<u>5</u>	<u>6</u> 休館	<u>7</u>	<u>8</u>	<u>9</u>	<u>10</u>
<u>11</u>	<u>12</u>	<u>13</u> 休館	<u>14</u>	<u>15</u>	<u>16</u>	<u>17</u>
<u>18</u>	<u>19</u>	<u>20</u> 休館	<u>21</u>	<u>22</u>	<u>23</u>	<u>24</u>
<u>25</u>	<u>26</u>	<u>27</u> 休館	<u>28</u>	<u>29</u>	<u>30</u>	<u>31</u>

【休館日】

毎週火曜日、年末年始（12/29～1/3）

図書館の利用案内

【開館時間】

平日：午前9時～午後7時

土日祝日：午前9時～午後5時

【借りられる数】

本・雑誌：ひとり10点まで

DVD：ひとり2点まで

【館内での飲食について】

フタ付きの飲み物（ペットボトル・水筒など）は可。

食事は談話室をご利用ください。

【年末年始のご返却について】

返却ポストへの多量の投函により、資料が破損するおそれがあります。

返却期限日が1/8以降の方は、12/29～1/3の返却ポストのご利用を、なるべくお控えください。



あなたにおススメ。

この冬、出会う物語。

ぜひ
読んでニャ。



人は知らず知らずのうちに、
誰かの背中を押している

『月曜日の抹茶カフェ』

青山 美智子 // 著 宝島社

川沿いの桜並木のそばに佇む喫茶店「マール・カフェ」が、定休日の月曜だけ「抹茶カフェ」を営むことに。思い悩む人々が誰かの何気ない言葉で前向きな気持ちになっていく、一杯の抹茶から始まる、12か月の癒しのストーリー。『木曜日にはココアを』続編。

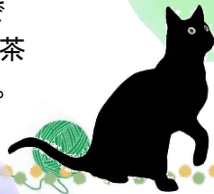


痛みや喪失を乗り越えて、
きみは素敵な大人になる

『きみの友だち』

重松 清 // 著 新潮社

友だちなんて結局他人。でも、特別で大切な他人なんだ。嬉しいこと、辛いことがいっぱいあったから、「友だち」の本当の意味を知ることができた。10の短編から成る重松清の長編小説。2005年の出版から、今なお読み継がれるロングセラー。



代々伝わる暮らしの知恵が、
大切なことを思い出させてくれる

『神さまのいうとおり』

谷 瑞恵 // 著 幻冬舎

「会社を辞めて農業をしたい」。父親が突然宣言し、高校生の友梨は曾祖母の暮らす田舎へ引っ越すことに。主夫となった父親や同級生との関係に悩む友梨に曾祖母が教えてくれたのは、絡まった糸をほどく、おまじないだった。はじめは、疑心暗鬼な友梨だったが……。

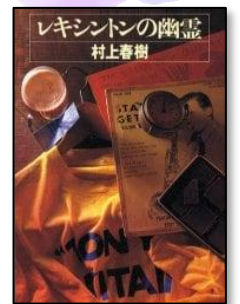


これはさめない夢なのか、
さめてからが夢なのか……

『レキシントンの幽霊』

村上 春樹 // 著 文芸春秋

古い屋敷で留守番をする「僕」があの夜見たものは何だったのか？ 椎の木の根元から突然現れた緑色の獣のかわいそうな運命とは。「氷男」と結婚した女は、なぜ南極に行こうとしたのか……。次々に繰り広げられる不思議で、楽しく、そして底なしの怖さを秘めた7つの物語。



風を感じて、走れ。
「速く」ではなく「強く」

『風が強く吹いている』

三浦 しをん // 著 新潮社

天才ランナーの走と出会ったことで、灰二は無謀にも陸上とかけ離れた者たちと箱根駅伝に挑む。自分の限界に挑戦し、ゴールを目指して襷を繋ぐレースは、「生きること」に限りなく似ていた。それぞれの「頂点」を目指し、ともに走る仲間たちの友情が胸に迫る。生きるために必要な真の「強さ」を謳いあげた、純度100パーセントの疾走青春小説。



無名画家ゴッホと、浮世絵の
奇跡的な出会い

『たゆたえども沈まず』

原田 マハ // 著 幻冬舎

19世紀後半、栄華を極めるパリの美術界。画商の林忠正は助手の重吉と共に流暢な仏語で浮世絵を売り込んでいた。野心溢れる彼らの前に現れたのは、日本に憧れる画家ゴッホと、兄を献身的に支える画商のテオ。その奇跡の出会いが「世界を変える一枚」を生んだ。読み始めたら止まらない、孤高の男たちの矜持と愛が深く胸を打つアート・フィクション。

